

■流域全体図1：土岐川・庄内川の魅力資源から見たエリア別の課題と方向性

- 凡例
- 緑地・ヨシ原・樹木・湿地・生き物
 - ビューポイント（川の一里塚候補地）
 - 歴史資源
 - ★ 旧街道との結節点
 - 水防拠点
 - 遊べる河原・川遊びの拠点候補地（体験G提案）
 - その他のポイント

ゾーン4：玉野溪谷

【魅力資源】

- 溪谷美
- 玉野用水、JR旧トンネル

【課題】

- ▲ 川にアクセスできる場所がない
- ▲ 車を停車させる場所がない
- ▲ 溪谷美をゆっくり味わえない
- ▲ 玉野堰：魚が上れない

【方向性】

- 保安全を基本としつつも溪谷を楽しめる場所がほしい
- 駐車スペース



▲河原でバーベキュー（鹿乗橋上流右岸）

ゾーン5：上流：暮らしの中を流れる身近な川

【魅力資源】

- まちの中を流れる川：生活、街並み、身近さ
- 虎渓山永保寺、白狐温泉の溪谷美、ネズミ岩、ワニ岩など
- 化石とり（瑞浪市、松ヶ瀬橋付近）
- 土岐川観察館、水辺の楽校（土岐小学校）

【課題】

- ▲ 魚が少い・夏場のPHが高い
- ▲ 水質改善・河川形態の多様性回復

【方向性】

- 地域固有の歴史や風景、観光資源を活かした川づくり・まちづくり
- 水質改善／河川形態・河川生態系の回復
- 手つかずの自然を残す（古虎渓、虎渓山周辺、白狐温泉）



▲桜並木（多治見市） ▲さがさ探検隊（多治見市） ▲化石とり（瑞浪市）

ゾーン3：中流部：ダイナミックな川の姿と周辺の自然的資源

【魅力資源】

- 中流部のダイナミックな川の姿
- 蛇行、河原、瀬や淵、河畔林
- 森林公園など周辺緑地とのつながり
- 周辺の丘陵地に分布する溜池群
- 桜佐のヨゲや霞堤（暮らしの知恵）
- このあたりから岐阜県にかけての古墳群
- 志段味ビオトープ、才井戸流（湧き水）

【課題】

- ▲ 川沿いで進む区画整理（桜佐、志段味）
- ▲ 河川敷地内の民地
- ▲ 寄州の発達：対岸の洗掘、樹林化の進行
- ▲ 放置され荒れている竹林や河畔林
- ▲ 神明上条用水堰の魚道
- ▲ 才井戸流周辺の開発（湧水の枯渇等）

【方向性】

- 中流部河川の地形的特性を活かす
- 蛇行、河原、湿地、湧水、伏流水
- 周辺の自然とのつながりを活かす
- 手入れをして自然を生かす
- 志段味ビオトープでの取り組み
- 河原：川遊び、生き物とのふれあい



▲中流らしい河川形態 川の蛇行、河原、河畔林 ▲志段味ビオトープ 竹林の手入れ・炭焼き

ゾーン2：下流部：多様な河川敷利用／周辺に分布する歴史資源

【魅力資源】

- 下流部らしい河川風景：広い河川敷、蛇行
- 川周辺の歴史資源：渡跡、新川洗堰、神社仏閣、旧街道
- 伝統的な文化：岩塚七所社きねこさ祭
- 多様な河川敷利用：シノ畑、スポーツ、レク
- 拠点緑地：横井山緑地、庄内緑地
- ふれあい橋（人道橋）：花火大会
- 枇杷島地区水防拠点（整備中）
- 庄内用水／人造石工法／天然プール跡

【課題】

- ▲ 川と周辺の歴史資源との関わりが希薄
- ▲ 水質問題：特に八田川合流点付近
- ▲ 床止、魚道の改善：小田井床止
- ▲ 川への近づきやすさ：堤防道路の交通問題
- ▲ 河川敷（高水敷）の利用のあり方
- ▲ 木陰がない
- ▲ 庄内用水への通年通水

【方向性】

- 人と川との関わりを重視する
- 心地よく歩ける、川で楽しむ、風景を眺める
- ボート、カヌーなどの水面利用
- 川と周辺の歴史文化をつなぐ（川と歴史ガイド）
- ミニ水防拠点の配置：川の駅（一里塚）
- 八田川合流点の水質改善
- 用水の復活
- 堤防道路の一方通行化・川表側に歩道



▲ビューポイント 万場大橋緑地から見た風景 川の蛇行、都市と自然の対比 ▲味鏡の西八龍社 庄内川にはカミナリ除けの八龍社がいくつかある

ゾーン1：河口部：干潟とヨシ原、生き物のにぎわい

【魅力資源】

- 藤前干潟：稲永公園／野鳥観察館
- 河口部のヨシ原／多様な生き物のにぎわい
- 広々とした河川空間／河口部独特の風景
- 新川と庄内川を分流する導流堤（中堤防）
- 正徳橋：人道橋（安心・くつろぎ・眺める）
- クロマツ並木（懐かしい河畔の風景）
- 下之一色魚市場、漁師町の風情、浅間社・川祭
- 下之一色水防拠点（整備中）
- 水面利用（可能性）：ボートが浮かぶ風景

【課題】

- ▲ ゴミの集積地（ゴミの宝庫）になっている
- ▲ ヨシ原の維持管理（手入れがなされていない）
- ▲ 土砂の堆積、乾燥化、河床上昇、ヨシ原の多くが民地
- ▲ 堤防道路：交通量が多いため、川に近づきにくい
- ▲ 水際付近に近づきにくい
- ▲ 底生生物（生態系の豊かさ）やゴミ問題が見えにくい
- ▲ 河口水際の構造改善：鮎の越冬地として重要（遠浅）

【方向性】

- 生物生態系の重要拠点としての位置づけ
- ヨシ原の適切な管理（刈り取り）
- 生物の生息空間に対する人の関わり方
- ゴミ問題の重点エリアとして取り組む
- 生き物との感動的な出会いとゴミ掃除大作戦
- ボート、カヌーなどの水面利用
- 堤防道路の一方通行化・川表側に歩道



▲稲永公園：河口のヨシ原と水鳥 ゴミも多い ▲河口部に広がるヨシ原 刈り取りなどの手入れ ゴミ掃除 ▲クロマツ並木と堤防道路 交通量が多く川に近づけない